

四季の鳥

私たちの近くに息づく野生

[文・写真] 中田一真

コシアカツバメ

— 泥の巣団地は橋の下



丹波地方のとある谷。ありふれた農村のなかを、一本の小川が流れている。そこには、コンクリート製の橋が一つかかっていた。

田植えが終わる頃、この橋は、にわかに活気づく。といつても、人が集まるわけではない。集うのはツバメの仲間。橋の下に、泥でつくった彼らの巣が並ぶのだ。

天井に張り付いた、徳利を横に倒したような形がコシアカツバメの巣。壁に張り付くコップのような形はイワツバメの巣。この二種は、コンクリートの建造物に好んで巣をかけることで知られている。同じツバメの仲間でも、民家の軒先などに巣をつくる普通のツバメは、ここには寄り付かない。

小学生の頃、鉄筋コンクリートの校舎の軒にコシアカツバメの巣があった。今思えば、学校の裏の川や田んぼが彼らの巣材集めの場であり、餌場でもあったのだろう。泥を運んで巣をつくり、雛が生まれてからはせつせと虫を運んでいた。

コンクリート好きの彼らといえども、都会の真ん中では暮らせない。土と水と虫とコンクリート。全部揃わぬことには、彼らの暮らしは成り立たない。

コシアカツバメ スズメ目ツバメ科
全長19cm

[撮影地] 兵庫県

なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】

<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>